

2022年度 ル・ソラリオン名和 事業計画

ル・ソラリオン名和

1. 施設理念

1. ご利用者の皆様に尊重し、その人らしい暮らしが続けられるよう支援します。
2. 安心して暮らせるように、ご家族・地域とのつながりを大切にします。

2. 施設方針 ・テーマ『地域に開かれた魅力ある事業所づくり』

- (1) 安心して心地よく暮らせるような思いやりのあるサービスを提供します。
- (2) 個々の暮らしやすさにつながる環境づくりを行います。
- (3) コンプライアンスを徹底し、健全な施設運営を実施します。
- (4) 在宅支援の充実を図り、高齢者にやさしい地域づくりの一翼を担います。
- (5) チームの一員として共に支えあい、働きやすい職場環境を構築します。

理念を実現するための土台は、チームアプローチである。

チームでご利用者の代弁者となり、家族とともに個別のアセスメントを深め、カンファレンスの中で自分らしい生活が実現できるよう、家族・スタッフ・多職種と協力していく。また、そのためにはまず職員同士が良いところを承認し助け合えるチームづくりを継続し、働きやすい職場環境を構築していきましょう。

チームアプローチで大切なこと：

「個々の暮らしの中で過去から現在・未来へのつながりを大切にした生活支援を展開する」

3. 今年度のポイント

- ◇ 令和3年度の報酬改定が取組が、サービス向上につながるような取組を行う。
- ◇ 「記録の充実」に重点を置きます。令和3年度の記録の研修以降、記録に変化が出ています。それをモニタリングやチームケア及びケアプランに活用していくこと。また、そのスキルを上げることで不要な帳票を減らし、電子記録を進めて行きます。
- ◇ 大規模改修をサービス向上に活かす。

4. 重点目標

〔抱負・目標〕 大山町の地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムが深化する中で、在宅医療・福祉との連携、認知症施策の推進等地域ニーズに合致したサービスを追求するル・ソラリオン名和は、関連施設・医療機関との効果的連携により、利用者・地域住民に信頼されるサービスを目指します。

また、時代の変化とともに変化する利用者ニーズをキャッチし、「在宅サービスによる生活支援の強化」と「施設サービスの改善」「働き方改革」を進めながら、魅力ある事業所づくりを行っていきます。

（１）人財育成と職場定着

- ① 専門スキルの向上：web研修の活用し、効果的な研修体系を構築する。
 - ・実践力に繋げる施設内研修の実施とナレッジリバーの効率的な活用を行う。
- ② 次世代リーダーの育成：リーダーと共にチーム力の向上を図る。
- ③ 職場のハラスメント対策の強化：お互いが思いやりを持てる職場づくり。
- ④ 業務改善による働き方改革：多角的視点で改善を行い、時間外労働を削減する。

（２）利用者へのサービス提供（顧客満足・質の向上）

- ①記録の充実：モニタリングの強化により生活の質の向上を目指す。
 - ・記録のIT化による効率化を推進する。
 - ・認知症の人との信頼関係を築きながら、利用者個々のQOL向上につなげる。
 - ・リハビリ・栄養・嚥下・排泄・褥瘡・認知症・看取り等、加算に関連する専門的情報を基にして、個別ケアを展開する。
- ②多職種連携で行う自立支援：生きる喜びを共に感じるケアを提供する。
 - ・専門職との連携を強化し、有効なカンファレンスの在り方を考える。
- ③ 断らない事業所：独居・低所得者等へ権利擁護の推進を通し困難事例に学ぶ。
 - ・地域・個々の利用者ニーズに応え、望む暮らしに向けた連携を図る。

（３）リスク対策（感染・安全・災害等）

- ①現場で想定されるリスク（事故・感染・苦情）の迅速な対応とサービス改善。
- ②災害リスク対策の確実な実施をする。
 - ・地震・火災・台風・大雪等に備えた具体的なネットワークづくり。
 - ・施設内・地元地域・関連施設との連携を行い、様々なパターンの訓練を行う。

（４）施設・設備整備

- ①大規模改修を活かし、時代と利用者個々のニーズに合った生活環境を提供する。
- ②計画的な設備・備品点検・修繕管理と不具合時の即時対応を行う。
- ③ハード面のメンテナンスを強化し、衛生的環境を整える。

（５）地域連携・社会貢献

- ①地域、ボランティアと職員の関係づくりを行う。
- ②地域住民の介護予防や認知症の人を支える地域づくりの取組を実施する。
 - 「心と身体の健康の集い」「オレンジカフェ」「施設交流会」など（広報活動含）
- ③コロナ禍でも安全につながることができる地域貢献活動を検討する。

（６）経営管理

- ①新規申込者を増やす：選ばれる事業所を目指して事業所からの情報発信を行う。
- ②事業所間の連携を強化：利用者ニーズに対する迅速・丁寧な対応を行う。

③在宅利用者サービスの強化、及び介護保険各種加算等に対応した運営を行う。

④収支予算の適正管理：質の向上と経営の安定の両輪に向けた取組を行う。

2022年度 GH やまと 事業計画

グループホーム やまと

《グループホーム理念》

「住み慣れた地域で、出来る事を共に喜び合う愛あふれるグループホーム」

《グループホーム方針》 テーマ『地域に開かれた魅力ある事業所づくり』

- (1) 認知症になっても安心して暮らせるように支援します。
- (2) 個々の暮らしやすさにつながる環境づくりを行います。
- (3) コンプライアンスを徹底し、健全な施設運営を実施します。
- (4) 高齢者にやさしい地域づくりの一翼を担います。
- (5) チームの一員として共に支えあい、働きやすい職場環境を構築します。

《今年度のポイント》

- ◇ 令和3年度の報酬改定が取組が、サービス向上につながるような取組を行う。
- ◇ 昨年度は、自分で活動できる方のレベル3の事故が続きました。本人の立場に立った自立支援を進めることでケアスキルの専門性を高める。
- ◇ 「記録の充実」に重点を置きます。令和3年度の記録の研修以降、記録に変化が出ています。それをモニタリングやチームケア及びケアプランに活用していくこと。また、そのスキルを上げることで不要な帳票を減らし、電子記録を進めて行きます。

《抱負・重点目標》

1. グループホーム やまとは、利用者が共同生活を送る上で、その共同生活住居が自らの生活の場であると実感できるよう支援します。
2. 自らの役割を持つことにより、達成感や満足感を得、自信を回復するなどの援助を行い、能力に応じた日常生活を営むことができるよう支援します。
3. 開設5年目となる地域の介護拠点として、ご利用者・地域住民に信頼されるとともに、地域環境、制度の変化をキャッチし、サービスの改善を進めながら、魅力ある事業所づくりを行っていきます。

（１）人財育成と職場定着

- ⑤ 専門スキルの向上：web研修の活用し、効果的な研修体系を構築する。
 - ・実践力に繋げる施設内研修の実施とナレッジリバーの効率的な活用を行う。
- ⑥ 次世代リーダーの育成：リーダーと共にチーム力の向上を図る。
- ⑦ 職場のハラスメント対策の強化：お互いが思いやりを持てる職場づくり。
- ⑧ 業務改善による働き方改革：多角的視点で改善を行い、時間外労働を削減する。

（２）利用者へのサービス提供（顧客満足・質の向上）

- ①記録の充実：モニタリングの強化により生活の質の向上を目指す。
 - ・記録のIT化による効率化を推進する。
 - ・認知症の人との信頼関係を築きながら、利用者個々のQOL向上につなげる。
 - ・リハビリ・栄養・嚥下・排泄・褥瘡・認知症・看取り等、加算に関連する専門的情報を基にして、個別ケアを展開する。
- ②本人の立場に立った自立支援：生きる喜びを共に感じるケアを提供する。
 - ・専門職との連携を強化し、有効なカンファレンスの在り方を考える。
- ③地域・個々の利用者ニーズに応え、望む暮らしに向けた連携を図る。

（３）リスク対策（感染・安全・災害等）

- ①現場で想定されるリスク（事故・感染・苦情）の迅速な対応とサービス改善。
- ②災害リスク対策の確実な実施をする。
 - ・施設内・地元地域・西部地区関連施設との連携を行う。
 - ・地震・火災・台風・大雪等に備えたリスクマネジメントを行う。
- ③各委員会係りの目的と役割の明確化、及びソラ名和との連携

（４）施設・設備整備

- ① 時代と利用者のニーズに合った環境づくりを行う。
- ② 計画的な設備・備品点検・修繕管理と不具合時の即時対応を行う。
- ③ 事務処理のルール化とWebを活用した情報共有

（５）地域連携・社会貢献

- ①地域連携推進会議の活用方法の再構築を行う。
- ②コロナ禍でも安全につながる事ができる地域貢献活動を検討する。
 - ・「オレンジカフェ」からのつながりを通した認知症の人を支える地域づくりの取組
 - ・地域住民の介護予防や認知症の人を支える地域づくりの取組を広報活動等を通して発信する。
 - ・地域、ボランティアと職員の関係づくりを行う。

（６）経営管理

- ①新規申込者を増やす：選ばれる事業所を目指して事業所からの情報発信を行う。